

第 12 節 結核・感染症

現状と課題

1. はじめに

奈良県の感染症対策にあたっては、「奈良県感染症予防計画」（平成 29（2017）年改定）に基づき、感染症の予防、まん延防止、医療提供体制構築等、総合的な感染症対策を推進しています。また、過去にハンセン病や後天性免疫不全症候群（エイズ）等の感染症の患者等にいわれのない差別や偏見が存在したという事実を重く受け止め、患者等の人権を尊重し、感染症に関する正しい知識の普及に努める必要があります。

2. 感染症対策

感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」により、その感染力や罹患した場合の重篤性に基づいて一類から五類感染症等に分類され、それぞれの感染症類型に応じて医療体制を整備することになっています（表 1）。

表 1 感染症類型と医療体制

感染症類型	主な対応	医療体制	医療費負担
新感染症	原則として入院	特定感染症指定医療機関 (全国3か所)	全額公費（医療保険適用なし）
一類感染症： エボラ出血熱、ペスト等		第一種感染症指定医療機関	医療保険適用残額は公費で負担 (入院)
二類感染症：結核、MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）等	状況に応じ入院	第二種感染症指定医療機関等	
新型インフルエンザ等感染症			
三類感染症：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症等	特定業務への就業制限	一般の医療機関	医療保険適用（公費負担なし）
四類感染症：A型肝炎、デング熱、日本脳炎、レジオネラ症等	動物の措置を含む対物措置		
五類感染症：インフルエンザ、梅毒、麻しん、風しん、感染性胃腸炎等	発生動向の収集・分析・提供		

感染症の発生動向については、奈良県感染症情報センター（保健研究センター内に設置）が中心となり、感染症発生動向調査事業を実施しています。同事業では、県医師会の協力を得て、医療機関における感染症情報を収集し、流行状況を分析・評価し、週毎及び年毎にとりまとめ、関係機関に提供しているほか、県ホームページ等で広く県民に公開しています。

本県の感染症発生状況は、一類感染症、結核を除く二類感染症の届出はなく、三類及び四類感染症は表 2 の通りです。特に腸管出血性大腸菌感染症は、毎年全国的な発生がみられることから、関係機関と緊密に連携して感染防止対策を講じています。

表2 奈良県域における感染症（三類、四類）の患者推移

		平成24年 (人)	平成25年 (人)	平成26年 (人)	平成27年 (人)	平成28年 (人)
三類 感染症	コレラ	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	5	1	0	1	2
	腸管出血性大腸菌感染症	17	30	23	27	23
	腸チフス	0	0	2	1	0
	パラチフス	0	0	0	1	0
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	2	2
	A型肝炎	0	0	8	2	3
	ボツリヌス症	0	0	0	0	1
	マラリア	1	2	1	2	0
	チクングニア熱	0	1	1	0	0
	つつが虫病	1	0	0	0	0
	デング熱	5	2	3	4	5
	日本紅斑熱	0	0	1	0	0
	日本脳炎	0	0	0	1	0
	ライム病	0	1	0	0	0
	レジオネラ症	8	12	11	8	10

出典：奈良県感染症情報センター

本県の感染症の医療体制としては、主として一類感染症患者等の医療を担当する第一種感染症指定医療機関として、奈良県立医科大学附属病院に感染症指定病床を2床設置しています。また、二類感染症患者等の医療を担当する第二種感染症指定医療機関として、県内に4病院を指定しています（表3）。

なお、第二種感染症指定医療機関における指定病床数は、国の示す基準を満たしていないため、今後も病床確保に努める必要があります。また、海外で発生している感染症の国内での発生や新型インフルエンザ等の発生に備え、平時から関係機関や関係部局と連携を強化しておく必要があります。

表3 感染症指定医療機関（平成29年4月）

種別	医療機関名	所在地	指定病床数（床）	担当する医療圏
第一種	奈良県立医科大学附属病院	橿原市四条町 840	2	全域
第二種	奈良県立医科大学附属病院	橿原市四条町 840	7	中和 西和
	済生会中和病院	桜井市大字阿部 323	4	東和
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町 1-50-1	1	奈良
	南奈良総合医療センター	吉野郡大淀町大字福神 8-1	4	南和

3. 結核

(1) 対策

全国の結核患者数は、平成26（2014）年に初めて2万人を下回りましたが、世界的にみると未だ「中まん延」の状況です。本県では、平成28（2016）年の新登録患者数は191人（罹患率14.1）であり、罹患率は緩やかに低下していますが、全国よりやや高値で推移しています。また、平成28（2016）年末現在の登録患者数は451人、うち191人が活動性結核患者で、結核死亡は12人です（表4）。

本県では、国で策定された「結核に関する特定感染症予防指針」に基づき、平成 17（2005）年に「奈良県結核予防計画」を策定し、結核の予防のための施策を推進してきました。平成 28（2016）年 11 月に国の指針が改正されたことを受け、平成 29（2017）年に「結核予防ガイドライン」として改定し、平成 32（2020）年に向けた新たな目標を設定し取組を進めています。また、「結核対策推進協議会」により県内の結核医療体制につき評価するとともに、医療連携を推進しています。

表 4 奈良県の結核患者数・罹患率推移

	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
新規患者（人）	253	281	298	237	261	285	244	230	230	191
罹患率	17.9	20.0	21.3	16.9	18.7	20.5	17.6	16.7	16.8	14.1
罹患率（全国）	19.8	19.4	19.0	18.2	17.7	16.7	16.1	15.4	14.4	13.9

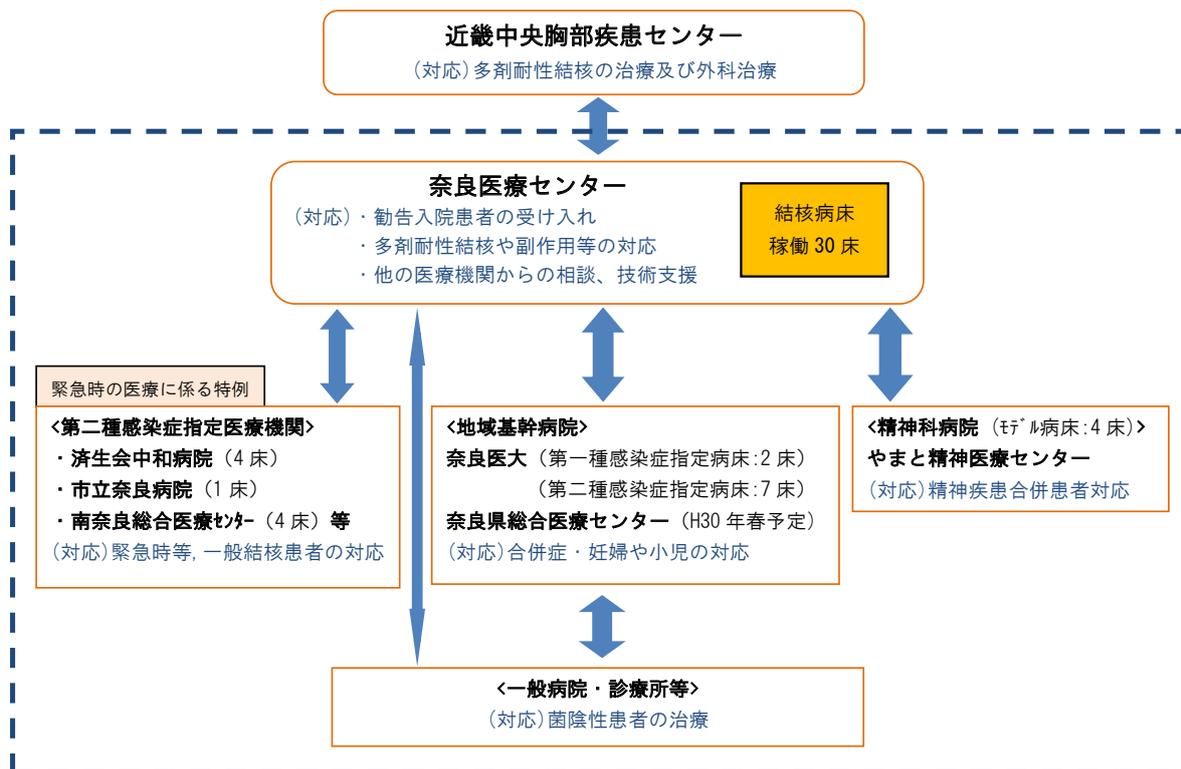
出典：厚生労働省「結核発生動向調査」

（２）医療体制

奈良県では、結核病床を持つ結核指定医療機関である奈良医療センターを中心に、モデル病床（一般病床または精神病床において結核患者を治療するための病床）を持つやまと精神医療センターや感染症指定医療機関等と連携し、結核医療体制を構築しています（図 1）。

本県においても結核患者数は減少しているものの、基礎疾患を持つ高齢の患者や外国生まれの患者が増えているため、病病連携・病診連携を強化するとともに、関係機関と連携して対応する必要があります。

図 1 奈良県の結核医療体制（平成 29 年 12 月）



4. HIV感染症・エイズ対策

エイズ（後天性免疫不全症候群）とは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス：Human Immunodeficiency Virus）感染によって免疫不全が生じ、日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態です。平成28（2016）年の全国の新規報告数は、HIV感染者1,011人（男性965、女性46）、エイズ患者437人（男性415、女性22）で、日本国籍男性がHIV感染者の85%（857/1,011）、エイズ患者の86%（376/437）を占めています。

本県においても、新規のHIV感染者やエイズ患者の届出が毎年みられるため、患者等の人権を尊重しつつ、感染拡大防止、早期発見及び早期治療、適切な医療の確保に努める必要があります（表5）。

表5 奈良県のHIV感染者・エイズ患者数推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
HIV感染者（人）	7	4	6	9	8	7	4	8	10	1
エイズ患者（人）	3	0	7	7	4	4	4	6	4	2
計	10	4	13	16	12	11	8	14	14	3

出典：厚生労働省「エイズ発生動向年報」

5. 予防接種

感染症の感染予防、発病や重症化予防、まん延防止のためには、予防接種が効果的な手段と考えられます。そのため、特に重要な疾患は予防接種法において定期接種として位置づけられ、市町村の公費負担で接種が行われています。

麻しん・風しんワクチンの接種率を例に挙げると、全国に比較して接種率が低い状況です（表6）。

定期接種のためのワクチンは、さまざまな理由により必要数の確保が困難な状況が繰り返し発生しているため、緊急事態に備えた接種体制の構築が課題となっています。

表6 麻しん・風しん予防接種の接種率

麻しん	第1期		第2期	
	平成27年度（%）	平成28年度（%）	平成27年度（%）	平成28年度（%）
奈良県	94.7	94.4	92.6	93.5
全国	96.2	97.2	92.9	93.1
風しん	第1期		第2期	
	平成27年度（%）	平成28年度（%）	平成27年度（%）	平成28年度（%）
奈良県	94.7	94.4	92.5	93.5
全国	96.2	97.2	92.9	93.1

出典：厚生労働省「麻しん風しん予防接種の実施状況」

6. 肝炎対策

我が国のウイルス性肝炎の持続感染者は、B型が110万人～140万人、C型が190万人～230万人存在すると推定されていますが、感染時期が明確ではないことや自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療を受ける機会がなく、本人が気づかないうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。最近ではC型肝炎の治療が進展し、患者支援が充実されてきた一方、少なくとも一回は肝炎ウイルス検査を受検し、検査結果が陽性である者の早期かつ適切な受診を促す必要があります。

本県では、市町村実施の肝炎ウイルス検診（健康増進事業）と保健所実施の肝炎ウイルス検査（特定感染症検査等事業）により、ウイルス検査（検診）を実施していますが、受検（受診）者数は減少しています（表7、8）。ウイルス検査（検診）の受検（受診）者数を増加するとともに、肝炎の重症化を予防する取組を周知することが課題となっています。

表7 市町村実施の肝炎ウイルス検診

	B型肝炎			C型肝炎		
	受検者数（人） A	陽性者数（人） B	感染者率（%） (B/A×100)	受検者数（人） A	陽性者数（人） B	感染者率（%） (B/A×100)
平成24年度	4,870	28	0.6	4,864	13	0.3
平成25年度	4,750	26	0.5	4,753	9	0.2
平成26年度	4,715	26	0.6	4,719	14	0.3
平成27年度	4,934	38	0.8	4,934	10	0.2
平成28年度	4,401	18	0.4	4,402	13	0.3

出典：奈良県保健予防課調べ

表8 保健所及び委託医療機関実施の肝炎ウイルス検査

	B型肝炎			C型肝炎		
	受検者数（人） A	陽性者数（人） B	感染者率（%） (B/A×100)	受検者数（人） A	陽性者数（人） B	感染者率（%） (B/A×100)
平成24年度	198	0	0.0	195	4	2.1
平成25年度	260	2	0.8	246	1	0.4
平成26年度	346	2	0.6	347	3	0.9
平成27年度	263	2	0.8	260	2	0.8
平成28年度	202	2	1.0	201	2	1.0

出典：奈良県保健予防課調べ

平成20（2008）年度に肝炎患者等が安心して治療が継続できるように、肝炎患者の治療方針の決定等を担う高い技術を有する肝疾患診療連携拠点病院や中核専門医療機関、専門医療機関を定めました（表10）。

また、肝硬変や肝がんへの進行を抑制するため、B型・C型慢性肝炎等に関する抗ウイルス治療医療費の一部助成を実施しています（表9）。更に、肝炎患者やその家族等が肝疾患について抱く不安や疑問を軽減し、治療を中断することなく継続して受けられるように、肝疾患相談センターを肝疾患診療連携拠点病院である奈良県立医科大学附属病院に設置しています。今後は、医療費助成等に関する国の動向を注視し、肝炎患者等に適切な情報提供を行うとともに相談体制を強化する必要があります。

表9 肝炎抗ウイルス治療に対する医療費助成状況

		助成件数			計（件）	助成金額 （千円）
		インターフェロン（件）	インターフェロ ンフリー（件）	核酸アナログ 製剤（件）		
平成24年度	B型肝炎	14		709	723	147,162
	C型肝炎	210			210	
平成25年度	B型肝炎	9		807	816	117,803
	C型肝炎	209			209	
平成26年度	B型肝炎	8		862	870	181,126
	C型肝炎	183	207		390	
平成27年度	B型肝炎	0		916	916	247,787
	C型肝炎	13	978		991	
平成28年度	B型肝炎	1		963	964	200,008
	C型肝炎	1	585		586	

出典：奈良県保健予防課調べ

表 10 奈良県肝疾患に関する専門医療機関及び専門医配置状況 (平成 29 年 4 月 1 日)

保健医療圏	番号	医療機関名	郵便番号	所在地	拠点病院	中核専門	専門医療機関	日本肝臓学会 肝臓専門医	日本消化器病 学会専門医
奈良	1	奈良県総合医療センター	631-0846	奈良市平松1-30-1		◎	○	○	○
	2	市立奈良病院	630-8305	奈良市東紀寺町1-50-1		◎	○	○	○
	3	済生会奈良病院	630-8145	奈良市八条4-643			○		○
	4	高の原中央病院	631-0805	奈良市右京1-3-3			○	○	○
	5	西奈良中央病院	631-0022	奈良市鶴舞西町1-15			○	○	○
	6	鍛冶田クリニック	631-0001	奈良市北登美ヶ丘3-12-15			○		○
	7	酒井内科医院	630-8141	奈良市南京終町1-193-5			○	○	○
	8	竹谷内科医院	631-0078	奈良市富雄元町2-1-19奥川ビル2F			○		○
	9	みやぎわ内科クリニック	631-0011	奈良市押熊町1141			○	○	
	10	やまね内科クリニック	631-0827	奈良市西大寺小坊町5-1			○		○
	11	よねだ内科クリニック	631-0041	奈良市学園大和町6-1542-382			○	○	○
	12	大倭病院	631-0042	奈良市大倭町5-5			○	○	○
	13	西の京病院	630-8041	奈良市六条町102-1			○	○	○
	14	安田医院	631-0013	奈良市中山町西2-1052-50			○		○
	15	つじもとクリニック	631-0036	奈良市学園北2-1-5 ローレルコート 学園前レジデンス施設棟1F			○	○	○
東和	16	天理よろづ相談所病院	632-8552	天理市三島町200		◎	○	○	○
	17	高井病院	632-0006	天理市蔵之庄町470-8			○	○	○
	18	高宮病院	632-0052	天理市柳本町1102			○	○	○
	19	寺西医院	632-0074	天理市東井戸堂町426-6			○		○
	20	山の辺病院	633-0081	桜井市草川60			○	○	○
	21	菊川内科医院	633-0054	桜井市桜井875			○		○
	22	のぞみ診療所	633-0005	桜井市忍阪39-1			○	○	○
	23	あさくらクリニック	633-0011	桜井市黒崎646-1			○		○
	24	城井内科医院	633-0241	宇陀市榛原下井足12-1			○	○	○
	25	国保中央病院	636-0302	磯城郡田原本町宮古404-1		◎	○	○	○
26	小篤内科小児科	636-0342	磯城郡田原本町三笠17-8			○	○	○	
西和	27	JCHO大和郡山病院	639-1013	大和郡山市朝日町1-62		◎	○	○	○
	28	田北病院	639-1016	大和郡山市城南町2-13			○	○	○
	29	豊原クリニック	639-1001	大和郡山市九条町188-2			○	○	○
	30	かくたに内科消化器内科	639-1007	大和郡山市南郡山町520-18大和郡山 マインド21 2階			○	○	○
	31	近畿大学医学部奈良病院	630-0293	生駒市乙田町1248-1		◎	○	○	○
	32	倉病院	630-0256	生駒市本町1-7			○	○	○
	33	白庭病院	630-0136	生駒市白庭台6-10-1			○	○	○
	34	宇山内科クリニック	630-0213	生駒市東生駒2-207-120			○	○	○
	35	阪奈中央病院	630-0243	生駒市俵口町741			○	○	○
	36	はしもとクリニック	636-0904	生駒郡平群町三里384-1			○		○
	37	奈良県西和医療センター	636-0802	生駒郡三郷町三室1丁目14-16			○	○	○
	38	かないずみ胃腸科・内科	636-0803	生駒郡三郷町東信貴ヶ丘1-8-26			○		○
	39	美松ヶ丘クリニック	636-0805	生駒郡三郷町美松ヶ丘東1-1-4			○	○	○
	40	奈良友誼会病院	639-0212	北葛城郡上牧町服部台5-2-1			○		○
41	服部記念病院	639-0214	北葛城郡上牧町上牧4244			○	○	○	
42	池田医院	636-0021	北葛城郡王寺町畠田4-17-22			○		○	
中和	43	大和高田市立病院	635-8501	大和高田市磯野北町1-1		◎	○	○	○
	44	奈良県立医大附属病院	634-0813	橿原市四条町840	◎		○	○	○
	45	平成記念病院	634-0813	橿原市四条町827		◎	○	○	○
	46	おおすみ内科医院	634-0014	橿原市石原田町160-6			○		○
	47	宮本医院	634-0007	橿原市葛本町364-1			○		○
	48	木田クリニック	634-0003	橿原市常盤町344-2			○	○	○
	49	米田診療所	634-0835	橿原市東坊城町510			○	○	○
	50	済生会御所病院	639-2306	御所市三室20			○		○
	51	香芝旭ヶ丘病院	639-0265	香芝市上中839			○		○
	52	旭ヶ丘クリニック	639-0266	香芝市旭ヶ丘5-36-1			○		○
	53	いけなか内科クリニック	635-0825	北葛城郡広陵町安部236-1-3			○	○	○
南和	54	中谷内科医院	637-0036	五條市野原西4-9-25			○		○
	55	南奈良総合医療センター	638-8551	吉野郡大淀町大字福神8-1		◎	○	○	○

取 組 む べ き 施 策

(1) 感染症対策

1) 感染症の発生の予防とまん延防止

感染症発生動向調査事業を充実し、県民や関係機関に感染症の予防に役立つ情報提供を行います。

保健所が関係機関と密接に連携し、感染症の予防に関する正しい知識を普及啓発するとともに、感染症のまん延防止のための取組を推進します。

2) 感染症に係る適切な医療の確保

第二種感染症指定医療機関について、奈良県総合医療センターの新築移転に伴い、新たに感染症病床として6床を指定するとともに、更なる病床の確保に努めます。

3) 緊急時における感染症対策

奈良県新型インフルエンザ等対策行動計画（平成26（2014）年策定）に基づき、新型インフルエンザ等が発生した際に、的確かつ迅速に対応する体制を整えます。

新型インフルエンザ等の感染症発生を想定した訓練等により、感染症指定医療機関や消防部局を中心とした関係機関との連携体制を強化します。

4) その他

薬剤耐性菌が世界的に増加する状況であるため、薬剤耐性対策として「適切な薬剤」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」使用するよう、医療機関や県民に普及啓発します。

(2) 結核対策

平成32（2020）年に、本県の結核罹患率を10.0以下とするため、「患者の早期発見」、「適切な結核医療の提供」、「原因の究明および予防対策等」を施策の柱として、保健所等において作成した「結核対策実践プラン」に基づき具体的な取組を進めていきます。

結核の発生動向を評価・分析するために、VNTR（Variable Numbers of Tandem Repeats）法の活用により、結核菌の病原体サーベイランスを強化します。

(3) HIV感染症・エイズ対策

HIV感染予防について、県民へ正しい知識を普及するとともに、学校教育等と連携して普及啓発活動を行います。また、保健所における検査・相談体制の充実を図ります。

エイズ治療の中核拠点病院（奈良県立医科大学附属病院）、エイズ治療拠点病院（市立奈良病院）、エイズ診療協力病院（13医療機関）を中心に、総合的な医療提供体制を確保します。

(4) 予防接種

基礎疾患のある対象者への接種体制整備や、予防接種による健康被害が生じた場合の救済支援等により、市町村による定期予防接種を支援します。

定期の予防接種の接種率を上げるために、県医師会や市町村等と連携して県民への啓発に努めます。

定期の予防接種に係るワクチンについて、県医師会や医薬品卸組合等の関係機関と連携し、安定的な供給体制が維持できるよう努めます。

(5) 肝炎対策

1) 肝炎ウイルス検査

県民が肝炎検査から早期に適切な治療へとつながることをめざし、肝炎検査の受検率向上となるよう、県民が受検する際の利便性等を改善することにより肝炎ウイルス検査体制を強化します。

2) ウイルス性肝炎患者等の重症化予防

平成 27 (2015) 年度から実施している肝炎の重症化を予防する取組として、県や市町村の検診で陽性となった方を適切に専門医療機関の受診・治療につなげられるように受診勧奨や、検査費用の助成を引き続き実施します。

3) 肝炎抗ウイルス治療医療費助成

肝がんへの進行抑制となる肝炎抗ウイルス治療にかかる医療費の助成を引き続き実施します。

4) 肝疾患診療地域連携体制強化

肝疾患診療連携拠点病院の肝疾患相談センターに専従医師を配置し、患者だけでなく医療関係者からの相談に対応し、市町村等への技術支援や地域連携となる取組をするなど体制を強化します。また、県内専門医療機関の質の均てん化及び専門医療機関と一般医療機関の連携を図るため、肝疾患診療連携拠点病院を中心とした医療機関のネットワークを構築し、取組を強化します。

5) 肝炎に関する正しい知識の普及啓発

肝炎患者等が正しい知識をもつことができるよう、また患者やその家族等が不当な差別を受けることがないよう、肝炎に関する正しい知識の普及に努めます。

また、地域や医療機関で陽性者を肝炎検査から治療に適切につなぐ人材である「肝炎医療コーディネーター」を拠点病院と連携して養成し、効果的な活用に努めます。

6) 肝炎対策推進協議会

肝炎対策を総合的に推進するために専門的な見地からの検討を行い、肝炎の予防や医療の推進を図ります。